

## カスミサンショウウオ域外保全活動のあゆみ

○川野夢冴士<sup>1)</sup>、中村雅之<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>マリンワールド海の中道

カスミサンショウウオは絶滅危惧Ⅱに選定されており,おもに丘陵地の森林・竹林近くの湿地・水田・溝などで繁殖期の1~4月頃に産卵が行われていた.しかし,圃場整備により産卵場が乾燥化したり,開発により産卵場所そのものが消失したりして,現在では産卵が確認できない場所が増え,絶滅が危惧される.

当館では2019年4月,近年宅地開発が進んでいる人丸公園ため池の用水路で見つかった卵塊を一般財団法人,九州管理協会が保護し,孵化・育成,したカスミサンショウウオ幼体131個体を引取り,系統群の保存飼育を行ってきた.同年8月,水族館内での飼育群の一部を,当館が位置する国営海の海の中道海浜公園内に,屋外保全飼育施設(180 cm×180 cm×高さ45cm;天井ネット囲い)を設置し,落葉を敷きつめて,地性生物を餌として利用する事を期待し,無給餌飼育を試みた.以後,当初屋外保全施設設置場所が,公園再整備工事等で使用できなくなり,飼育場所を変えながら屋外粗放飼育を継続してきた.

現在,国営海の中道海浜公園環境共生の森エリアに移設し,飼育施設内で繁殖するまでになった.飼育開始から,現在までの6年間の域外保全活動の歩みについて報告する.